

「脱炭素」時代を生きる覚悟と責任

～NPO 法人環境文明 21 の提言

1. 背景と趣旨

- (1) 今日の人々の生活は、あらゆる意味で様々な危機に取り囲まれており、中でも、気候危機は中・長期的には急速な深刻化が懸念されている。
- (2) このような事態に、国内的には「2050年カーボンニュートラル」の実現を目指す脱炭素政策が、また国際的には英国で開催された COP26 での合意が見られたように、これまでよりも厳しい目標となる「1.5℃昇温抑制」を目指す脱炭素政策がとられようとしている。
- (3) 国内においては、その達成手段として制度の変革や技術のイノベーションなどが強調されている。しかし、私たちは、この大きな変革を乗り越えるには、気候危機の実態への正しい認識、それを克服するための厳しい施策の必要性、その基本的方向性などについて、広範な人々が共通の理解を持ち、互いに協力して実行する覚悟と責任感の共有が前提にあると考えている。
- (4) しかし現時点では、とかく「今だけ、金だけ、自分だけ」に代表されるような風潮が社会を覆い、危機を克服するのに必要な覚悟や責任感は希薄である。
- (5) こうしたことから、以下の「環境倫理」の項目を提案し、広範な検討と多くの人々の共感と支持を経て、「脱炭素」時代にふさわしい考え方（理念・価値体系）と暮らし方（行動規範・原則）を共有財産として、気候危機の時代を生き抜き、次世代に良好な環境を引き継ぐために行動することを宣言するものである。

2. 提言

私たち環境文明 21 は、倫理部会からの提案を受けて、『脱炭素時代を生き抜く環境倫理』として、次の項目を提案する。

(1) 人としての倫理項目

有限の認識：地球環境は有限であり、これまでの人間活動の拡大により、今後の活動の環境上の余地は限界に達しつつあることを認識する

抑制する知恵：何事も（資源の消費を伴う）無限の拡大・成長はあり得ないことを自覚し、知足の心で、自らの行動を環境が許容する範囲内に自制する知恵をもつ

循環の工夫：不要物の再利用や自然への還元を可能にする仕組みをつくり、すべてのモノを循環させる工夫に努める

共存する喜び：人は孤立しては生きられず、様々な人や生き物とも共にこの星で調和して生きていく喜びを持つ

利他の心：自己利益だけではなく、他の人の幸福や利益にも常に配慮し、尊重する心をもつ

公正の確保：「真実」を判断することが難しい時代の中でも、貧富、権力、ジェンダーの格差に係る公正を確保するよう常に努める

(2) 政治に関わる人に期待される倫理項目

1) 国政に携わる人の倫理

- ①短期的な利害だけでなく、中長期の未来における危険性(リスク)について深く洞察し、科学と倫理に基づく政策を提示する
- ②途上国並びに将来世代を含むすべての人々の真の豊かさの確保に尽力する覚悟を常日頃から表明し、実行する
- ③解決の先送りは決してせず、逃げない、させない旨、常日頃から表明し、実行する、
- ④環境問題の解決のために、できる限り多くの国や国際機関と協力し、多様な主体の参加と共同する体制を作り上げることがめざす
- ⑤環境危機の実態とその原因等についての情報を、官僚からだけでなく、専門家、NPO、市民、企業等から幅広く収集し、分析する
- ⑥誰一人取り残さない社会を造るために、富を適正に分配し、格差を是正する政策を作り実行する

(3) 消費者に期待される倫理項目

①有限の認識：

- 私たち消費者は、一人ひとりの消費行動が、環境、そして途上国の人たちや将来世代に、今得られる利便性や快適性の代償として、様々な苦痛や過大な負担を与えていることを自覚し、自らの責任を認識し、行動しましょう。
- 「世界中の人が現在の日本人と同じ生活をする、地球が 2.9 個必要」と言われるほど、過剰な消費をしていることを自覚し、消費そのものを減らしましょう。
- 私たち消費者が消費の主役であり、私たちが変われば生産者が変わることを自覚し、消費行動を通じてその責任を果たしましょう。

②抑制する知恵

- 防災等緊急時のための予備以外は、必要なものを、必要な時に、必要なだけ買い、必要なだけ使うようにしましょう。
- いくらあっても満足できない心になっていないか、本当の豊かさとは何か、自らをふりかえりましょう。

③循環の工夫：

- すべてモノに価値があり、無駄にしていいモノ、使い捨てていいモノはないことを思い、可能な限り繰り返し使うようにしましょう。

④共存する喜び：

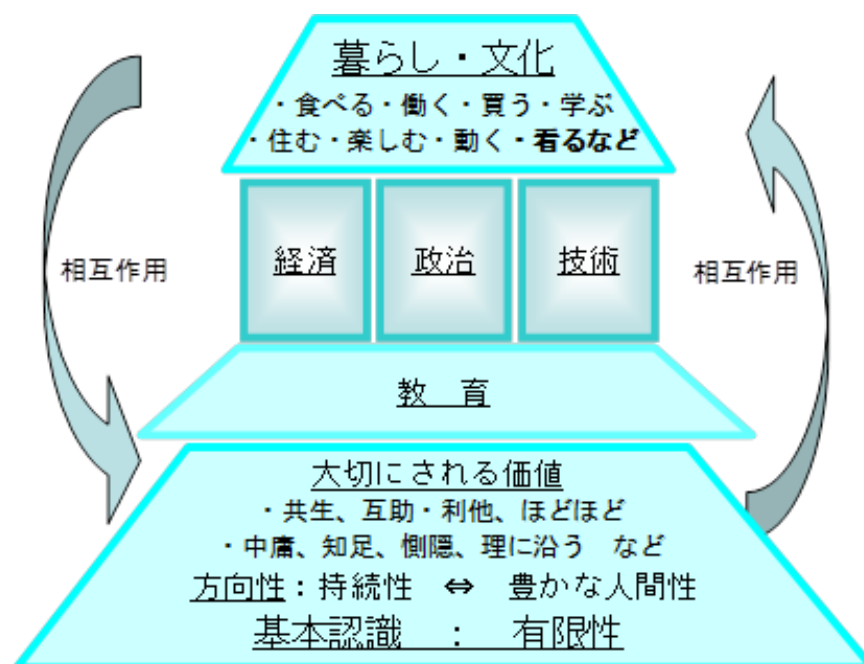
- 私たちの豊かで便利な消費生活は、すべての生命の基盤であり社会・経済活動の基盤である環境やそこで育まれた資源、それにかかわる多くの人々の恩恵により成り立っていることを自覚し、それらのすべてに対して感謝の気持ちを持ち続けましょう。
- 私たちの暮らしや健康、地域や地球の環境を守っている生産者を応援し、消費者も生産者も皆が心地よさや喜びを感じられる消費を心掛けましょう。

⑤利他の心：

- 必要以上のものを独占せず、他者と分け合い共有する「わかちあい」を習慣にしましょう。
- 利己的な消費欲を抑制し、他を思いやる利他的消費をこころがけましょう。
- 自己の利益だけを喜びとするのではなく、人を幸福にする、人に利益を与えることに喜びを感じられるようになりましょう。

⑥公正の確保：

- SNS 上などにあるフェイク情報やコマーシャルに惑わされることなく、人にも環境にも配慮した製品・サービスかどうかを自分で確かめ選択する習慣を身につけましょう。
- 人にも環境にも配慮した製品・サービスかどうか意識して選びましょう。
- 特に先進国に住む私たちの便利で豊かな生活は、途上国の多くの人々の労働や資源の上に成り立っていることを知り、搾取ではない公正な取引を求め、それを支持する消費を心掛けましょう。



2021年12月4日
認定NPO法人 環境文明21